

令和4年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

学校の概要

大阪市立味原小学校	児童数	39名
-----------	-----	-----

平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	15.86	17.59	29.50	41.23	46.05	10.02	143.09	16.19	48.58
大阪市	16.11	18.44	33.14	38.26	42.95	9.59	148.22	20.07	50.83
全国	16.21	18.86	33.97	40.36	45.92	9.53	150.83	20.31	52.28
女子	16.69	14.47	33.88	39.25	31.75	10.51	137.44	11.25	49.93
大阪市	16.01	17.55	38.00	36.50	34.13	9.76	140.76	12.77	52.65
全国	16.10	17.97	38.18	38.66	36.97	9.70	144.55	13.17	54.31

結果の概要

男子については、反復横とび、20mシャトルランが全国平均・大阪市平均を上回る結果となったが、それ以外の種目に関してはすべて平均を下回った。特に長座体前屈とソフトボール投げは大きく平均を下回っている。女子については、握力、反復横とびが全国平均・大阪市平均を上回る結果となったが、男子同様、それ以外の種目に関してはすべて平均を下回った。特に上体起こしと50m走は大きく平均を下回っている。このことから男子は柔軟性と投力、女子は筋持久力と走力がそれぞれの課題である。

体力合計点についても、全国・大阪市平均を下回り、課題箇所のみならず、全体的な体力の底上げが必要である。一週間の運動時間が60分未満と答えた児童は、男子が9.1%と全国・大阪市平均より若干低く、女子は18.8%と全国・大阪市平均を上回っている。

これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

コロナ禍における体力づくりの取組の中止や校舎外壁改修工事による運動場の使用制限などが児童の体力低下の原因であると思われる。来年度からは徐々に体力づくりの取組が再開できる見込みである。

今回の結果で男女それぞれの運動課題が明確になり、その解決のための取組が必要となった。まず、体育科の授業改善のために、実技研修や授業研究に取り組む。柔軟性・持久力・投力・走力の向上を重点に指導内容を工夫する。また、体育科の授業だけでなく、運動委員会主催のスポーツ教室の実施や体力づくり運動週間の設定など、体力づくりの取組を今年度以上に進め、体力の底上げを図る。児童が主体的に楽しんで運動に取り組むことができる業間運動を工夫する。

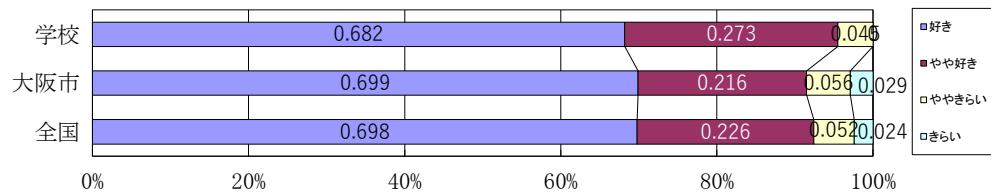
これらの取組を通して、児童が進んで運動に親しむことができるような学校づくりをすすめ、運動が好きな児童の割合をさらに高め、運動能力・体力の底上げを実現する。

運動・体育科授業について

本校の特徴的な結果

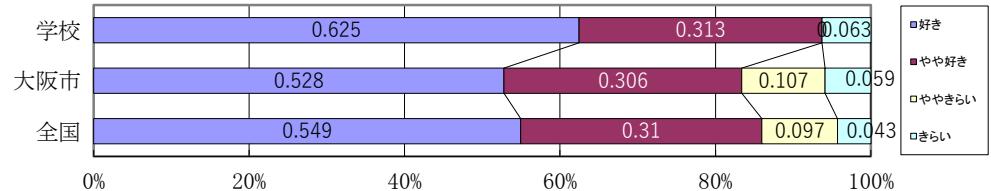
検証項目1

運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか(男子)



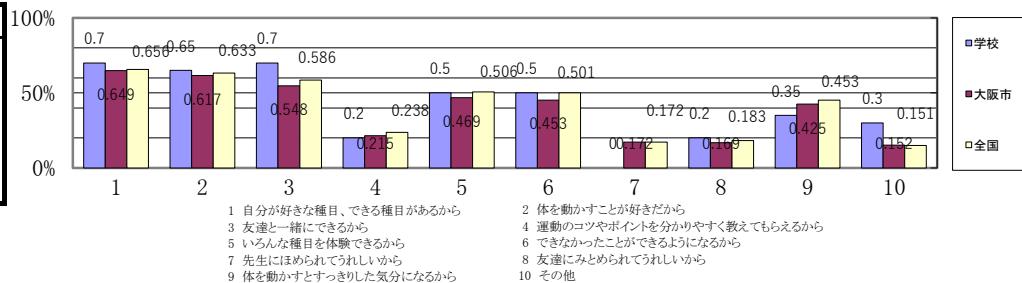
検証項目2

運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか(女子)



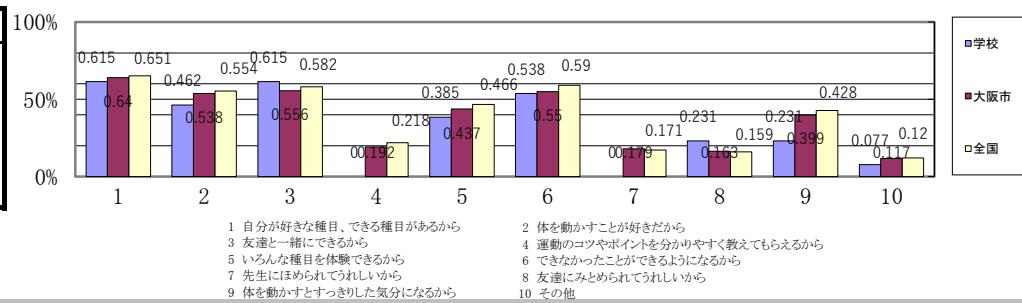
検証項目3

運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きな理由(質問1で「好き」「やや好き」を回答)(複数回答可) (男子)



検証項目4

運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きな理由(質問1で「好き」「やや好き」を回答)(複数回答可) (女子)



成果と課題

運動が好きと回答する割合は男女ともに非常に高く、これはこれまでの体育科授業、体育的行事を行う中で、児童の運動に対する意欲を高めることができていることがわかる。また、体育科授業の中で、児童同士の対話を通してできなかつたことができるようになり、運動が好きになっている児童が多いこともわかる。今後も、対話を通してわかる体育科授業の展開を維持し続けていきたい。

今後の取組

運動に対して前向きにとらえている児童が多くいる中、若干数はあるが、運動することが苦手と感じている児童もいる。これらの児童を、意欲的に運動に取り組むことができる授業展開を実現するため、指導教諭を中心として、体育科実技研修や授業研究を進め、わかる・できる体育科授業の実現にむけて取組を進める。